

自己評価結果公表シート(令和3年度)

学校法人東粉浜幼稚園

1. 本園の教育目標

本園では、めざす子ども像として「いつも健康でがんばる子ども」「自分から進んでする子ども」「あたたかい心でみんなと力を合わせる子ども」を設定し、子ども達の「おもいやりの心と活動する意欲」を育てることを目標にしている。

2. 本年度重点的に取り組む具体的な目標と計画

全教職員が本園の建学の精神と70年に及ぶ歴史と伝統に立ち返り、新教育要領の内容理解を真摯に受け止め、日々の保育の具体化を図っていくことは極めて重要である。そこで、全教職員の共通理解の場を持ち、目標達成のための具体的な方策・計画を設定することにした。

3. 評価項目の達成及びそのための取り組み計画

評価項目	成果と今後の課題
幼稚園教育要領をふまえ、園児の実態に即した本園の指導計画を作成する。 (A)	<ol style="list-style-type: none">1. 年度末の反省と改善点をふまえ、各歳児の指導計画を作成し、見通しをもったきめ細やかな保育をすることができた。昨年のコロナ感染時の教育の教訓を日々の保育に生かすよう心がけた。2. 指導計画を基に日案を各担任が作成し、日々の記録を残し、反省点を明確にすることができた。3. 副主任・主任・園長が計画案を点検し、指導・助言を行った結励まされ、学年打ち合わせも密になってきた。
安全管理・安全指導の充実を図る。 (B)	<ol style="list-style-type: none">1. 徒歩通園の安全については、担当教諭、当番保護者との連携強化等、特段の配慮をしたが、コロナ感染拡大のため、予防対策としてコース別徒歩通園の実施はできなかった。2. メール配信システムの有効活用により、園から各家庭への発信をより早く行い、周知・徹底するように努めた。3. 地震・津波の発生等、災害時における子どもの安全確保のための訓練を計画的に行い、安全に避難できるように指導してきた。今後はさらに弾道ミサイル発射時の対応についても訓練していきたい。(保護者への周知含む)
子ども理解に努める。	<ol style="list-style-type: none">1. 各学期ごとに子ども理解研修会を行い、全教職員で子ども理解に努めるとともに課題を共有するとともに、顔となまえが一致するように努めた。2. 引継ぎがスムーズに行われるように、個人情報の保護を視野に入れ、引継ぎ簿の充実を図るようにした。

<p style="text-align: center;">(B)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 3. 個々の育ちを大切にされた全員の個別の指導計画を作成し実践を図るとともに、点検・反省の場を定期的に行うようにした。本年度もまたコロナ感染予防対策を考え保護者懇談の場を模索してきた。 4. 執行理事(発育・発達カウンセラー)を中心とした教育相談の充実を図り、幼稚園・家庭とが共通理解のうえに子ども理解に努めてきた。幼児発達検査も保護者の協力もえられ3年間の発達の様子がよく分かるようになった。
<p>教職員研修の充実を図る。</p> <p style="text-align: center;">(A)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園の課題を明確にし、課題解決を図る実践研究を各学級、ポジションにおいて積み上げていった。 2. 長期休業中等には、教職員自らが研修内容を主体的に選択し、進んで受講できるように、園外研修の充実に努め、周りの教職員へ広める機会をつくった 3. 自主的な学年別研修課題を設定し、研究発表の機会を設け有意義な研修の機会となった。 4. 今年はオンライン研修を受講する教職員も増え、意欲の高まりが見られた。また研修の輪を広げる取り組みとして「ほめ言葉のシャワー」の実践が行われた。
<p>質の高い保育の提供と国際的な視野に立つ保育の実施に努める。</p> <p style="text-align: center;">(B)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感性を育む描画造形、音楽教育には、従来通り、専門講師を招聘し、担任も指導技術を磨く場となり、互いの緊張感が見られる有効な場となった。 2. グローバル化・国際化の時代を鑑み、外国の人、文化に親しみを持てるように、三歳児より英語指導に取り組んできた。この時間を楽しみにする子どもも増えてきた。 3. 子どもたちが身につけた力を生活発表会などで発揮できるよう環境・場づくりを工夫してきた。運動会・作品展・生活発表会は分散型の発表の場となったが生活発表会は保護者参観とはならず残念がられる保護者が多かった。
<p>地域交流の活性化に努める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域主催の体験イベントへの保護者・子どもの積極的な参加を促す。大人のしかけであっても地域連合会主催の運動会、住吉区文化発表会などで、幼稚園のチアリーディングのパフォーマンスを行うとともに、中学校の吹奏楽とコラボレーションを企画し実践する。 2. 隣接する小学校を中心に中学校との連携を図る。(災害訓練、遊び、運動会、音楽交流会、中学生による職場体験等) 3. 小学校の運動場・芝生のうえで、からだを思いっきり開

<p>その結果、教職員の技量(保育力)も高まり、自信を持って保育に向き合うようになってきた。</p> <p style="text-align: center;">(A)</p>	<p>る等、明るく、たくましく活動できるようになってきた。</p> <p>3. 「できなかったこと」が、幼稚園で過ごす生活の中で、一つひとつ「できるようになってきたこと」が、子ども達の一番の楽しさ・喜び・うれしさであり、次への意欲・自信につながっていく。どの子どもも成長著しく楽しみである。</p> <p>4. 保護者間のふれあいも近所というつながりから、園生活(学級・行事等)での子どもを通してのつながり、PTA活動を通してのつながりへと広がりを持つようになってきた。</p> <p>また、放課後支援事業の充実により、子ども達は年少・年中・年長という縦集団でのふれあい・協同活動を通してその時間を楽しみにする子が増えてきた。玄関ホールでの親子の会話も和やかであり、見ているほうも楽しい。</p>
<p>全員参加のPTA活動が計画的に行われ、保護者相互のふれあいが深まった結果、園運営においても大変スムーズで、親子ともども協力的で仲がよい関係である。</p> <p style="text-align: center;">(A)</p>	<p>1. 園の方針の徹底を図るには、教職員だけでなく保護者にどれだけ認識と協力が図れるかによる。そこで、保護者会、園行事への保護者参加、PTA活動の充実を図ることに努めた。保護者のネットワークの広がりや、時に批判に変わるという面も否めない。</p> <p>2. PTA役員が続投が見られ、PTA行事等にかかる引継ぎが円滑・スムーズに運び、保護者間の雰囲気がとてもよかった。次年度もこうしたチームづくりをしていきたいと役員選出もスムーズに運んでいる。</p>

5. 今後取り組むべき内容

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み
<p>社会性を育てる場作りを進める。</p>	<p>今後は、放課後遊びの時間を月2時間設定することにより心身を開放して遊び、そこから生じる友だち間のトラブルに自ら考え、判断し、行動できるように、保育者は、見守り、支援していくことのできる場づくりの工夫をする。</p>
<p>朝ののびのび保育(預かり保育)の周知に努める。</p>	<p>預かり保育時間延長の要望が保護者よりあり、平成26年度より朝、夕刻それぞれ30分、前倒し、延長に踏み切ったが、朝の利用者が少ないのが実態である。次年度もさらに保護者の要望に耳を傾け、周知するようにする。</p>
<p>2歳児・3歳児教育の子ども達との交流をどのように考え、設定していくか検討する。</p>	<p>2歳児・3歳児教育では、お友だちといっしょに遊ぶことを目標に、遊ぶこと(3歳児教育、年少組の保育内容につながるウォーミングアップ的な活動)の楽しさを実感できるようにしてきている。そのなかで一緒に活動する友だちへの意識も芽生え、共に行動することも見られるようになってきた。来年度の入級予定者も増加しキャンセル待ちである。</p> <p>今後は、子ども達の発達段階と実態を勘案して、園内における日常的なふれあい・交流を考えていきたい。</p>

